

伊勢國お庭街道

庭園を巡る令和のお伊勢参り



近代日本を代表する建造物と調和した池泉回遊式庭園

六華苑(旧諸戸清六邸)

旧東海道や水運が交わる要衝の地として栄えた桑名は、「伊勢国の玄関口」と称されました。「七里の渡し」跡には「伊勢国一の鳥居」が建ち、伊勢神宮の式年遷宮ごとに建て替えられています。平成5(1993)年、「七里の渡し」跡近くに開苑した「六華苑」は、洋館と和館、蔵などの建造物群と、池泉回遊式の主庭園などで構成された施設。桑名の実業家・2代諸戸清六の邸宅を、ほぼそのまま残した姿で整備されました。



洋館



和館から主庭園を鑑賞



内庭露地と離れ屋

「主庭園は、洋館に隣接する和館に座って鑑賞してみてください。正面の松は樹齢100年近くで、枝が伸び過ぎないように剪定してあります」と教えてくれるのは、苑長の石神教親さんです。おすめ通り、腰をおろして眺めていると、見事な

【桑名市桑名】

季節ごとに異なる風情を有する日本には、各地の特性や風土を反映した日本庭園・洋風庭園・植物園・都市公園などが多数存在します。国土交通省では、複数の庭園が連携することで、魅力的な体験や交流を創出することを目的として、「ガーデンツーリズム登録制度」を開始。三重県内でも、昨年4月に7庭園で構成された「伊勢國お庭街道」庭園を巡る令和のお伊勢参りが登録されました。

江戸時代のお伊勢参りでは、人々は街道を通って伊勢をめざし、参拝前後には神社仏閣や観光名所などに立ち寄りながら、楽しんだといひます。令和のお伊勢参りでは、お庭巡りをしながら、「美し国」三重を満喫してはいかがでしょうか。

*取材協力・お問い合わせ

「みえガーデンツーリズム協議会」

MAIL message@ise-oniwakaido.jp

*各庭園の見学期間や見学時間、見学方法、受け付け人数、見学料金などには違いがあり、状況に応じて休園中止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文：中村真由美・中村元美・堀口裕世・中川絵美子
撮影：梅川紀彦・松原豊・尾之内孝昭・中村元美
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

枝ぶりの松に加えて、濡れ縁から園池へと丸い石が敷き詰められているのに気が付きました。これは、岩や石で水の流れを表現する技法で「枯流れ」と呼ばれます。



石神 教親さん

現在、主庭園は修復作業中です。3月中旬までの間は園池の水を抜く予定で、いつもとは違う様子が見られるとのこと。また、池の底には、昭和20(1945)年の空襲の際に受けた爆撃の跡があることも教わりました。桑名市の文化・観光の拠点であると同時に、歴史の証人でもある同苑は、四季折々の美しさで訪問者を魅了してくれます。今春も「歴史街道協議会」主催のツアー(3月28日(土)・4月7日(火))などが予定されているため、参加してはいかがでしょうか。

お問い合わせ

六華苑(月曜日定休)
TEL 0594-24-4466
入苑料 一般(高校生以上) 460円
中学生 150円

菰野町の新たな魅力を発信、
重森三玲氏作庭の名庭園

横山氏庭園（菰野横山邸園）

〔三重郡菰野町〕



表庭※

柿の実がたわわに実るころ、静かな住宅地の中にたたずむ横山邸を訪ねると、穏やかな笑顔の横山陽二さんが出迎えてくれました。邸宅所有者の横山さんは、「みえガーデンツーリズム協議会」会長として「伊勢国お庭街道」の魅力を発信するため、東奔西走の日々を過ごしていらっしやいます。この日は、横山邸の周囲に設けられた4つの庭（玄関前庭・表庭・裏庭・尽日庵露地）で構成された「横山氏庭園（菰野横山邸園）」（国登録記念物（名勝地関係））の見学会が実施されました。

江戸時代に菰野藩士



横山 陽二さん※

となった横山家当主は、明治時代には村長、大正時代には衆議院議員を務めました。また、第二次大戦後には診療所を営み、地域医療にも貢献しています。現在、敷地内には、江戸時代後期に建立された正門に続いて、同時代末期の主屋と土蔵、明治時代後期の診療所、昭和43（1968）年に横山邸内に移築された茶室「尽日庵」、茶室移築と時を同じくして完成した書院および渡廊下が並び建ち、国の登録有形文化財となっています。

「重森三玲氏に庭づくりを依頼したのは、祖父の秀吉です」と横山さん。重森三玲（1896～1975）は、昭和を代表する作庭家であると同時に、日本庭園史の研究家として知られます。東福寺の本坊庭園（京都府）や、岸和田城庭園（八陣の庭）（大阪府）など、多くの名庭園を手掛け、国内外の人々の心を惹き付けています。当時の秀吉さんは外科医

として多忙な日々を過ごし、「手術は心が整っていないとできないから、心字形の庭にして欲しい」と希望したとのこと。その結果、地面を大海に見立てて白砂を敷き、その中に低い築山を心字形に配置した表庭などが完成しました。昭和43（1968）年のことでした。この表庭を間近に望める書院には椅子が2脚あり、祖父は、こっちの椅子によく座っていました。長寿だったから、座ると長生きできますよ」との軽妙な説明に、見学者の表情も一斉に和らぎます。

書院の北側に設けられた裏庭は、一転

してモダンで斬新なデザイン。赤砂と白砂が交互に敷かれた様子は、稲穂や麦の穂が陽の光を浴びて、黄金色に輝く様子を抽象化したものだと言われます。尽日庵露地や、正門から玄関まで続く玄関前庭などもそれぞれに印象的で、深く心に残りました。

同庭園見学を希望する場合は、随時開催される見学会に加えて、菰野町内の文化観光施設とコラボしたツアーに参加するとよいでしょう。たとえば、菰野町観光協会主催のツアーでは、「横山氏庭園」に加えて元25番尾高山観音堂や元



「中日ツアーズ」主催の見学会※

26番慈眼寺などを参拝する「菰野巡礼―心の旅」が開催されています（次回開催予定は3月22日（日））。これは、江戸時代に盛んに行われた「伊勢西国三十三所観音巡礼」を再現したもので、お伊勢参りの帰途に、菰野町内を通る観音巡礼道があり、もう一つのお伊勢参りと称されたことに由来します。いずれのツアーでも、菰野町の新たな魅力を発見できるでしょう。

お問い合わせ

横山氏庭園（菰野横山邸園）

（完全予約制）

MAIL: yokoyoji@yokoyamateien.jp



正門※



玄関前庭※



裏庭※



国宝の御影堂

国宝の御影堂
や如来堂などの
大伽藍が立ち並
ぶ専修寺。その
後方に「雲幽園」
があります。広
報課の千賀光真こうしん



【津市一身田】

池の向こうに茶室「雲幽園」の潜り門が見える



萱薺きの門をくぐると別世界へ

さんのご案内で、大玄閣横の入り口を抜け、竹林脇の小径を通って萱葺かぶききの門をくぐると、大きな池のほとりに出ました。池には水鳥が遊び、その向こうに茶室が見えます。「この庭は南北朝時代に作られたともいわれ、昔は茶室『安楽庵』まで舟で渡って茶会を催したこともあるそうで



千賀 光真さん

ムラサキツツジ(和名コバノミツバツツジ)の名所として知られる伊奈富神社は、五穀豊穡の神として稻生地域の人々の信仰を集めてきました。江戸時代には伊勢(参宮)街道の神戸宿かんべから上野宿間の近道として同地区を通る道があり、多くの参拝者で賑わっていたといえます。



伊奈富神社庭園
ななしまいけ
(七島池)
【鈴鹿市稻生西】

【鈴鹿市稻生西】

「伊奈富神社庭園」とムラサキツツジ※

神社の鳥居をくぐると、細長い池に気が付きました。県指定名勝の「伊奈富神社庭園」です。参道を歩くにつれて、大きな異なる島が次々と姿を現します。島の数が7つあるため、七島池の通称で親しまれています。

弘法大師(空海)が一夜で掘ったとも伝わる庭園の正確な築造年代は不明でしたが、室町時代後期に作成された「勢州稲生村三社絵図」(県指定有形文化財)に描かれた姿などから、同時代にはすでに築造されていたことがわかっていました。平成27(2015)年に確認調査を実施したところ、少なくとも鎌倉時代以来の遡る可能性が高くなりました。

「七島池は、横からだけでなく縦方向

の西側や東側からなど、色々な角度から觀賞すると、それぞれに違う景色が楽しめますよ」と話すのは、禰宜の吉田実生さんです。試しに縦方向に眺めてみると、島と島が



ムラサキツツジ※



「勢州稻生村三社絵図」部分※



拜殿

※印の写真は取材先から提供していただきました

重なり合うように見え、参道からの眺めとは趣が異なりました。周囲の緑が水面に映り込み、一幅の画えのようです。



本年もやがて、ムラサキツツジが見ごろとなる4月が到来。同神社では16日（木）の例祭までの間に「つつじまつり」が行われ、土・日曜日ごとに「子供みこし行列」『雅楽奉納』奉祝マルシエ』いのう大宮市』など、楽しい行事が目白押し。数千株のムラサキツツジと庭園の競演も見応え十分です。

お問い合わせ

伊奈富神社

TEL 059 - 386 - 4852



吉田 実生さん

茶室に至る飛び石※



古い由緒を持つ茶室「安楽庵」※

たこのこと。

公開の「レジエンド&バタフライ」や「わたしの幸せな結婚」、今年2月公開される「木挽町のあだ討ち」などが撮影されたこと。

茶室に至る飛び石※



古い由緒を持つ茶室「安楽庵」※

庭園で、広さは3250坪あります。専修寺全体の敷地が約3万坪もあり、普段は公開さ

通常は非公開ですが、毎年1月9、16日の報恩講の期間と、親鸞聖人の月命日に行われる「御参廟と朝粥」(2月、12月の16日・要予約)の参加者は見学が可能です。

お問い合わせ

TEL 059-232-7234

※印の写真は取材先から提供していただきました

枯山水と池庭で構成される室町末期の武將庭園

北畠氏館跡庭園

【津市美杉町】



日本三大武將庭園の一つ。堅牢さと美しさが際立つ米字池

地形を巧みに活かした造形は野趣にあふれ、枯山水、複雑に屈曲する米字池など風雅な見どころもたくさん。伊勢国司を務めた北畠氏ゆかりの北畠氏館跡庭園は、昭和11(1936)年に国の「名勝及史跡」の指定を受けました。色鮮やかな紅葉や静寂さを醸す苔など、自然と調和した美しさで知られています。

「新緑や紅葉の季節もいいですが、冬枯れの時期は庭園自体の石組が一層しっかりと見られます。雨上がりに苔も葉っぱも潤い、すべて



瑞々しい苔の緑

をきれいに洗い流してくれる美しさがありますよ」と季節ごとに趣を変える庭園の魅力や日常の美しさを、北畠神社宮司の岡みどりさんが教えてくれます。



宮司・岡みどりさん※

作庭者は室町幕府で管領を務めた細川高国で、高国の娘が嫁いだ伊勢国司7代北畠晴具を訪ね、1530年頃(享祿年間)に作ったとされています。辞世の句の中に「絵にうつし石をつくりし海山を後の世までも目かれずや見む」という伊勢国司に宛てた一首が残されています。武將が手がけた素朴で力強い石組は、豪放で野生的。一乗谷朝倉氏庭園(福井県)と旧秀隣寺庭園(滋賀県)とあわせて、日本三大武將庭園の一つです。

平成8(1996)年からの発掘調査で、瀬戸・美濃・常滑・備前などから運び込まれた陶器、地元産の土器、京都との

いでいます。

つながりを示す皿類などが多数見つかっています。都から離れた地に各地の文化や品物が流入し、文化都市的な色彩も同われ、北畠氏の権威と風格が示されています。

枯山水の中心に聳える立石は高さ2メートル弱で、その周囲にひれ伏すように小さな石群が渦巻き、まとまりのある一つの姿を構成しています。

池の汀線は複雑に入り組み、護岸に据えられた石は大きく堅牢。作庭から500年近くもの間、風雪に耐え、池を抱いて守ってきました。谷川から流れ込む水は清らかで、池ではコイが優雅に泳

南北朝時代から室町・戦国時代にかけて、隆盛を誇った北畠氏。吉野朝廷(南朝)を支持し、吉野と伊勢の間にあるこの地に拠点を置いたと考えられ、初代伊勢国司の北畠顕能が興国3・康永元(1342)年に霧山城を築き、ふもとに居館を建てました。

北畠氏は9代約240年間にわたり伊勢国司を務めていましたが、天正4(1576)年、天下制覇を狙う織田信長の動きの中、時勢には逆らえず侵攻を受け、滅ぼされました。「城と館は焼かれてしまいましたが、庭園だけこの状態

で残されていたのは奇跡的です。500年の歴史の重みがあります」と岡宮司。滅亡後の寛永20(1643)年に、一族の末裔が供養のために小さな祠を設けたのが北畠神社の始まりで、顕能を主祭神としています。

平成18(2006)年には庭園と霧山城を合わせ「多気北畠氏城館跡」として国史跡の指定を受け、平成29(2017)年、霧山城は「続日本100名城」に選定されました。交通の要所として伊勢本街道が通るこの場所に、庭園に魅了される人々、また北畠の歴史好きな人、そして城跡へ登る人と、多くのファンが訪れています。

お問い合わせ

北畠神社

TEL 059-275-0615

第2・4水曜 休務日(授与所休・庭園閉園・参拝は可能)(祝日や祭典の場合、翌日が休務日)(夏期繁忙期と紅葉シーズンは休みなし)

9時~16時30分

入園料(維持管理費)一般500円
学生(高校生以上)300円

渦巻き状に組まれた石



雪化粧の枯山水の庭※



旧別格官幣社の北畠神社

※印の写真は取材先から提供していただきました

江戸・明治・大正の3つの時代に造られた庭

旧長谷川治郎兵衛家

【松阪市魚町】



明治時代に造られた庭。夏はスイレンが美しい

江戸時代、木綿問屋などを営んで、有力な江戸店持ち伊勢商人の一つとして知られた豪商・長谷川家。その本家が、松阪市魚町に残されています。間口が49メートル、奥行き100メートルという大きな敷地。魚町通りから見ると、うだつのある主体部や蔵など、いくつもの建物が重なるように並び、瓦の乗った塀の上から、大きな松が枝を伸ばしています。

「ここには、江戸・明治・大正と3つの時代に造られた庭があります」と話すのは、館長の松本吉弘さん（NPO 法人松阪歴史文化舎）。

ご案内に従ってまずは「表庭」である江戸時代の庭へ。大座敷の窓からのぞくと、大きな松が見事な枝を斜めに伸ばしています。「この松は、魚町通りから見える『見越しの松』です。この庭には織部燈籠があり、表側の茶室の庭としての機能を持っていたようです」。

いくつもの座敷を通り抜け、大正座敷へ。その建物に沿って造られた庭は、鍵の手に曲がった形で、木々の間にたくさん石や石灯籠、蹲踞などが配されています。「この庭も、座敷と同じく大正時代に造られたもので、一番古い石灯籠は天正12（1584）年ごろのものと言われています」。家屋も庭も、しつとりと落ち着いた雰囲気の中に繊細な好みと職人の技術の粋が詰め込まれています。さらに進むと、4つの大きな土蔵がどっしりと並び先に、明治時代に造られた庭が広がっています。石橋の架かる島



館長の松本 吉弘さん

がある池を中心に、離れや茶室、四阿などがあり、周囲には木立が続きます。「表から蔵までは魚町、この庭の部分は殿町と、この家の敷地は背割り排水を挟んで二つの町にまたがっています。南側にある市の駐車場なども元はこの庭の一部で、約2000坪の広さであったということです」。

長谷川家の繁栄とともに、時代を追って敷地も広がっていったのです。

「1代当主の可同（定矩）（1868〜1925）は茶道を好み、大正座敷の所にあった裏千家今日庵の写しをこの庭に移築したり、趣味で集めたお餅に関するコレクションを展示した博物館『餅舎』

（大正10年）を建てたりしました。どちらも昭和63（1988）年に解体されましたが、この敷地内にあり、『餅舎』は名所として地図にも載せられていたのです」。豪商の主ならではの豪奢で粋な遊び心が伺えます。

庭には鳥居の立つ祠もあります。「元は稲荷社で今は魚町の山の神がお祀りされています。山の神は松阪では子どもの健康を祈る祭りで、毎年秋には地元の子どもたちも参加してお祭りをしています」。

豪商・長谷川家ならではの歴史と代々当主の美意識がにじむ庭。桜や睡蓮、紅葉と、四季折々に見どころがあります。



台所にはかまどが並び

お問い合わせ

旧長谷川治郎兵衛家

TEL 0598-21-8600

休館日 水曜日（祝日の場合は翌平日）

年末年始

入園料 一般400円 6〜18歳200円
（20名以上の場合は団体割引あり）



窓から江戸時代の庭を見る



通路の露地にも風情が



大正座敷の脇の庭



大正座敷から庭を見る



魚町通りからは「見越しの松」が見える

江戸期の名工が建てた茶室で
心静かに庭を楽しむ

玄甲舎

（金森得水別邸兼茶室）〔度会郡玉城町〕



庭から望む「玄甲舎」。聚楽（じゅらく）塗りの外壁は得水のおもてなしの心を表す

ＪＲ田丸駅のすぐ側にある「玄甲舎」。ここは弘化４（１８４７）年に建設された金森得水の茶室兼別邸です。得水は江戸時代後期に田丸城主・久野丹波守の家老として藩政を預かる傍ら、茶の湯への造詣も深く、表千家の免許皆伝をつけ、畿内の茶人三傑の一人ともうたわれました。得水によって設計・建築された「玄甲舎」は、茶室・迎賓用を兼ねた数寄屋と家族が生活を営む居宅で構成された数寄屋造りが特徴です。その建築には、千利休が営んだ茶室「不審庵」など再建した江戸時代の名工・庄五郎が携わっており、「玄甲舎」は庄五郎の作風を現在に伝える現存唯一の建物であるといわれています。平成中期までは金森家の子孫が暮ら

していました。現在、玉城町が譲り受け、平成２５（２０１３）年には町の文化財に指定。築１７０年を超え老朽化の進んでいた建物や庭園を改修し、令和元年度から一般に公開されています。

得水は「玄甲舎」を建築してから、しばしばここで茶会を開催し、士族をはじめ当代一流の各界名士を招き、交流を深めたと伝えられています。茶室から望める庭園は約２５０坪。石灯籠や蹲踞（つくばい）（石や岩などで作った手水鉢）が備えられており、青々としたスギゴケの庭には大小の奇怪石を取り混ぜた飛び石が置かれています。ツワブキ、ヤブミョウガ、ヤブコウジ、サツキなどが植えられており、２～３月頃にはロウバイも楽しめます。茶室は２室。広間の茶室（八畳）は下座床のつくりになっており、手前座（てまえざ）の後ろに床の間があり、亭主は庭に向かってお点前をします。「亭



栃本 明子さん 出口 聡子さん

主と客と一緒に庭園を眺めていたのでしようね」と「玄甲舎」を管理している玉城町生涯現役促進協議会の栃本 明子さん。現在は庭園の周囲に木々が生えています。かつては南側に広がる国東山系の山並みや、東側の鷲嶺（きりぎりす）（袴腰山）を借景として楽しんでいたそうです。隣にある小間（二畳）の茶室ではより少人数で親密に過ごしたことが伺えます。小間の茶室からの眺めには正面にウバメガシの木が植えられ、蹲踞の水面に陽の光が反射し茶室にゆらぎのあるやわらかな光を届けるなど、季節や時間によって移り変わる自然を楽しむことができます。庭園の中



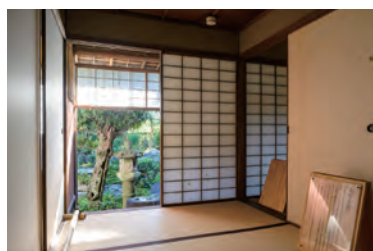
「玄甲舎」につづく通路の茶畑



客が最初に通される寄付（よりつき）



下座床の茶室（広間）



二畳の茶室（小間）



さまざまな展示も開催

聡子さん。建物のすぐ側に線路がありますが、これはかつて三千坪あったという敷地の一部を参宮線が敷かれる際に金森家が寄贈したというエピソードもあります。地域や文化の発展に尽くした金森得水の想いは、現在も文化や伝統を伝える拠点として引き継がれています。

お問い合わせ

「玄甲舎」玉城町生涯現役促進協議会内
TEL 0596-58-8050
休館日 毎週火曜
年末年始（12月29日～1月3日）
入園料 大人200円 高校生以下、障がい者手帳をお持ちの方無料